

# 「税」は日本の明るい未来」

郡山市立郡山第二中学校 三年 在原 小優喜

近年、頻繁に発生している線状降水帯や台風による大雨、洪水などによるニュースを目にする機会が増え、あれからもう五年も経つのか、と時の流れを感じながらある出来事を思い出しました。

二〇一九年十月六日に南鳥島近海で発生した台風十九号は、大型な台風に発達しました。六日後の十二日に福島県では大雨特別警報が発令されました。私の祖母と祖父は福島県の中通りを流れる阿武隈川の近くに住んでいたため、離れている私の家に避難しました。数時間経ち河川は大雨によって水量が増え、阿武隈川の堤防が決壊し洪水が発生しました。運悪く私の祖母達の家は洪水により浸水しました。ですが県や高校生のボランティアなどの協力のおかげで無事に洪水による家の土砂を取り払うことができました。

この出来事から何ヶ月かが経ち、だんだん暮らしが落ち着いてきました。土壁で出来ていた祖母達の家は損壊の危険がありもう住むことが出来なかったため、解体をせざるを得ませんでした。この家の代わりに近くのアパートが県から用意されました。

私は、県が被害に遭った方々の援助をしていることをニュースで知りました。そのことについて気になったのでくわしく調べてみることにしました。すると祖母達の家のような被災住宅の解体費用などの支援金を国や県が負担をされていて、その支援金は私達が払っている様々な税によって成り立っているものだと知りました。また市役所で、被災した際に必要になる罹災証明書の発行も全て税金で行われているそうです。これは災害による家屋の被害の程度を証明するもので、支援金の申請に必要なものです。実際に祖母も「支援金などの補助があつて助かった。」と祖母も言っていました。

私は国や地方の補助金によって、便利な生活を送ることができていることに気付かされ、税金を納めている人達に感謝の気持ちでいっぱいになりました。悲惨な出来事でした。

たが、税は幸せに暮らしていくための方法であり、これから先何が起きるか分からない中で私達を支えてくれる必要不可欠なものだと認識することができました。

「税」と聞いて、一番身近な消費税や住民税など暮らしの中で必ず関わる税にマイナスのイメージを持っている人が多いと思います。実際に私も家族が被害に遭うまではそのようなイメージを持っていました。ですが私達は災害時などの他にも公共施設の設備や学校で使っている教科書一冊一冊も税金によって支えられています。つまり税金は私達の生活を支える大切な存在なのです。税金を納めることは日本のどこかで困っている人を助けることにつながっています。これからの明るい未来を守り、築いていく国民として、「税」を理解し繋げていくことが良い日本への第一歩ではないかと思います。